

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上のための研究

平成27年度～28年度 総合研究報告書

研究代表者 石川 秀樹

平成29(2017)年 5月

目 次

I . 総合研究報告

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上のための研究

石川秀樹 京都府立医科大学 分子標的癌予防医学 (資料) 消化管ポリポース 診断基準・重症度分類案 「若年性ポリポース症候群の診断基準案」 「Peutz-Jeghers症候群の診断基準案」 「Codon 病診断基準案」 「腺腫性ポリポースの診断基準案」 「Gardner 症候群の診断基準案」	-----	1
--	-------	---

II . 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	13
---------------------	-------	----

III . 公開シンポジウムプログラム	-----	29
---------------------	-------	----

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上のための研究

研究代表者： 石川秀樹 京都府立医科大学分子標的癌予防医学 特任教授

研究要旨

本研究の目的は、客観的な指標に基づく疾患概念が不十分な消化管良性多発腫瘍好発疾患（Peutz-Jeghers 症候群、Cowden 症候群、若年性ポリポシス、腺腫性ポリポシス、Gardner 症候群）について、客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類を確立し、これら疾患の医療水準の向上を目指すことである。この研究の目的のため、国内外の論文レビューを行い、科学的根拠を集積・分析し、診断基準・重症度分類案を作成した。作成した分類案について、国内の専門家に開示し、意見を収集し、それらの意見を反映した情報をホームページに開示し、研究者や患者、一般市民が閲覧することを可能とした。

研究分担者

松本主之 岩手医科大学内科学講座
消化器内科消化管分野 教授
石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター
消化管外科・一般外科 教授
田中信治 広島大学病院内視鏡診療科
教授
高山哲治 徳島大学大学院医歯薬学研究部
消化器内科 教授
山本博徳 自治医科大学内科学講座
消化器内科学部門 教授
武田祐子 慶應義塾大学 看護医療学部
大学院 健康マネジメント研究
教授

A．研究目的

本研究の目的は、客観的な指標に基づく疾患概念が不十分な消化管良性多発腫瘍好発疾患（Peutz-Jeghers 症候群、Cowden 症候群、若年性ポリポシス、腺腫性ポリポシス、Gardner 症候群）について、客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類を確立し、これら疾患の医療水準の向上を目指すことである。

B．研究方法

消化管良性多発腫瘍好発疾患のうち、下記の 5 疾患について、各疾患の専門家を集め、国内外の論文を収集し、レビューを行い、それらの情報より、日本人に適した客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類案を作成する。

- (1) 若年性ポリポシス
- (2) Peutz-Jeghers 症候群

(3) Cowden 症候群

(4) 腺腫性ポリポシス

(5) Gardner 症候群

その目的のために、複数回の班会議を開催する。

（倫理面への配慮）

本研究は論文レビューなどが主体で、患者個人情報扱うことはないが、市民公開シンポジウムなどでは、患者個人や患者会関係者も参加するため、それらの参加者名簿や、写真などは十分注意して取り扱い、個人や家系が同定される形ではいかなる場合も公表しない。

C．研究結果

国内外の論文レビューを行い、科学的根拠を集積・分析し、診断基準・重症度分類案を作成した。その成果は、各分担研究者の報告書に記した。

複数回にわたり、国内の専門家の多くが出席する班会議を開催、班員が作成した診断基準案・重症度分類案について、詳細を討論し、班としての最終案を作成した。さらに、その案を、国内の専門家に開示し、意見を募った。集まった意見を収集し、それらの意見を反映した最終版の診断基準・重症度分類を作成、ホームページにて公表した。

2016 年 1 月 31 日には慶應義塾大学病院にて公開シンポジウム「消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上に向けて」を開催した。

D．考察

これらを作成するにあたって参考にした資料はほとんどが海外のものであり、国内からの報告はかなり少なく、日本人に適した診断基準・重症度

分類になっているか否かについては、さらに検証をする必要がある。そのためにも、極めて稀なこれら疾患の実態を正確に把握するために、登録システムを構築することが急務と考える。

また、これらの疾患は、腺腫性ポリポージス、Gardner 症候群を除き、日本における診療ガイドラインがないため、本班で作成した診断基準、重症度分類を基準として、診療ガイドラインを作成することが不可欠である。

さらに、希少疾患であるこれらの疾患について、高い質で診療できる拠点病院の整備も必要と考える。

E . 結論

各疾患の国内外の論文を収集し、各疾患の診断基準と重症度分類案を作成した。

今後、関連学会とも連携しつつ、これらの案の完成度を高め、引き続きこれら疾患の医療水準の向上を目指すとともに、各疾患の診療ガイドラインの作成、レジストリの構築、拠点病院の整備も急ぐべきと考える。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1. 論文発表

1. Endoscopy, 48, Endoscopic management of familial adenomatous polyposis in patients refusing colectomy, 2016 Jan, Ishikawa H, Mutoh M, Iwama T, Suzuki S, Abe T, Takeuchi Y, Nakamura T, Ezoe Y, Fujii G, Wakabayashi K, Nakajima T, Sakai T.
2. Dig Dis Sci, 61, Feasibility of Cold Snare Polypectomy for Multiple Duodenal Adenomas in Patients with Familial Adenomatous Polyposis: A Pilot Study. 2016 Apr 28, Hamada K, Takeuchi Y, Ishikawa H, Tonai Y, Matsuura N, Ezoe Y, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H.
3. The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 101, Age- and Gender-Specific Risk of Thyroid Cancer in Patients with Familial Adenomatous Polyposis, 2016 Dec, Uchino S, Ishikawa H, Miyauchi A, Hirokawa M, Noguchi S, Ushiyama M, Yoshida T, Michikura M, Sugano K, Sakai T.

4. Familial Cancer, 16, Pancreas-sparing total duodenectomy for Spigelman stage IV duodenal polyposis associated with familial adenomatous polyposis: experience of 10 cases at a single institution. 2017 Jan, Watanabe Y, Ishida H, Baba H, Iwama T, Kudo A, Tanabe M, Ishikawa H.

5. INTESTINE、20、家族性大腸腺腫症－最新の治療を中心に、2016 May、石川秀樹

6. 日本消化器病学会雑誌、113、家族性大腸腺腫症における大腸癌の予防、2016 Jul、石川秀樹

7. 日本消化器病学会雑誌、114、腺腫性ポリポージス 遺伝性大腸癌診断ガイドラインの解説と実臨床での対応、2017 May、中島健、石川秀樹、斎藤豊

2. 学会発表
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3.その他
なし

消化管ポリポース 診断基準・重症度分類案

パブリックコメント資料

2017/1/14

難治性疾患政策研究事業	
(研究課題名) 消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上のための研究(H27-難治等(難)-一般-003)	
(研究代表者名) 石川 秀樹(京都府立医科大学 特任教授)	
(研究期間) 平成27年度 ~ 平成28年度	
研究課題の概要(目的、方法、期待される成果等、200字程度で記述) 本研究の目的は、客観的な指標に基づく疾患概念が確立していない難病である消化管良性多発腫瘍好発疾患(Peutz-Jeghers症候群、Cowden症候群、若年性ポリポース、腺腫性ポリポース、Gardner症候群など)について国内外の論文レビューを行い、科学的根拠を集積・分析する。その結果、全国規模の客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類を確立し、これら疾患の医療水準の向上が期待される。	
対象疾患リストと担当者 (1) 若年性ポリポース 山本博徳 (2) Peutz-Jeghers症候群 松本主之 (3) Cowden症候群 高山哲治 (4) 腺腫性ポリポース 田中信治 (5) Gardner症候群 石田秀行	
目標	(1) 若年性ポリポース (2) Peutz-Jeghers症候群 (3) Cowden症候群 (4) 腺腫性ポリポース (5) Gardner症候群 上記5疾患について、国内外の論文をレビューし、本邦における診断基準案、重症度分類案を策定する。 これらの案を国内研究者に公開、意見を収集する。 その後、上記診断基準および重症度分類を日本家族性腫瘍学会雑誌に投稿する。

診断基準案・重症度分類案

若年性ポリポーシス症候群の診断基準案

A 主要所見

1. 大腸に5個以上の若年性ポリープが認められる。
2. 全消化管(2臓器以上)に複数の若年性ポリープが認められる。
3. 個数を問わずに若年性ポリープが認められ、かつ、若年性ポリープの家族歴が認められる。
(上記3項目は、1988年 Jassらによる診断基準)

B 若年性ポリープの組織学的所見

1. 密な間質組織を伴う正常上皮組織の所見を認める。
2. 粘膜固有層を主座に、腺の嚢状拡張、粘膜の浮腫と炎症細胞浸潤を伴う炎症像を認める。
3. 粘膜筋板筋繊維の増生は認めない。
4. 介在粘膜には炎症/浮腫を認めない。

C 鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

Peutz-Jeghers 症候群、Cowden 症候群、Cronkite-Carragee 症候群

D 遺伝学的検査

1. SMAD4 遺伝子の変異
2. BMPR1A 遺伝子の変異

< 診断のカテゴリー >

Definite: Aのうち1項目以上 + Bのうち3項目以上を満たしCの鑑別すべき疾患を除外し、Dを満たすもの

Probable: Aのうち1項目以上 + Bのうち3項目以上を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの

< 重症度分類案 >

下記の所見を認める者を重症例とする。

1. アルブミン値 3.0g/dl 以下の低アルブミン血症
2. ヘモグロビン値 10g/dl 以下の貧血
3. 腸閉塞・腸重積、消化管癌合併の既往
上記、いずれかを有する症例を重症とする。

Peutz-Jeghers 症候群の診断基準案

A 症状

1. 口唇、口腔、指趾などに 1-5mm ほどの色素斑
2. 消化管多発ポリープによる腹痛、血便
3. 消化管、膵、乳腺、卵巣、子宮、精巣、肺などの悪性腫瘍による症状

B 検査所見

1. 画像所見: 食道を除く全消化管の過誤腫性ポリポージス
2. 病理所見: 上皮の過形成と粘膜筋板の樹枝状増生

C 鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

家族性大腸腺腫症、若年性ポリポージス、Cowden病、結節性硬化症、炎症性ポリポージス、serrated polyposis、Cronkite-Canada 症候群

D 遺伝学的検査

1. STK11(LKB1)遺伝子の変異

E 家族歴

1. 近親者の Peutz-Jeghers 症候群の罹患

< 診断のカテゴリー >

Definite:

- [1] Aの項目 1 + Bの2項目を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの
- [2] Aの項目 1 + E を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの
- [3] Bの2項目 + E を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの
- [4] Bの2項目を2カ所以上で認められCの鑑別すべき疾患を除外したもの
- [5] Bの2項目 + D を満たすもの

Probable:

- [1] Aの項目 1 + D を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの
- [2] Aの項目 2, 3 + D を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの

Possible: Aの項目 3 + D を満たしCの鑑別すべき疾患を除外したもの

< 重症度分類案 >

家族性大腸腺腫症における十二指腸腺腫の重症度分類 (Spigelman 分類) に準じて消化管ポリープの程度によ

り重症度分類を行う。

数(1-4個:1点、5-20個:2点、21個以上:3点)

大きさ(1-4mm:1点、5-10mm:2点、11mm以上:3点)

組織型(過誤腫:1点、腺腫:2点、癌:3点)

①～④合計 0点:stage 0 1～2点:stage I, 3～5点:stage II, 6～7点:stage III, 8～9:stage IV

Cowden病診断基準案

NCCNによるCowden症候群診断基準に準じる。遺伝学的検査は参考所見とする。

Cowden症候群の診断基準案

A 特徴的基準

- ・成人型 Lhermitte-Duclos 病(LDD)
- ・粘膜皮膚病変: 顔面・外毛根鞘腫、四肢末端角化症、乳頭腫様病変

B 大基準

- ・乳癌
- ・甲状腺癌(乳頭癌または濾胞性甲状腺癌)
- ・巨頭症(巨大頭蓋症)(頭囲 > 97 パーセンタイル)
- ・子宮内膜癌

C 小基準

- ・他の甲状腺病変(例: 腺腫, 腺腫様甲状腺腫)
- ・知的障害(IQ < 75)
- ・消化管過誤腫
- ・乳腺線維嚢胞性疾患
- ・脂肪腫
- ・線維腫
- ・泌尿生殖器腫瘍(例: 子宮筋腫、腎細胞癌)
- ・泌尿生殖器奇形

D 遺伝学的検査

PTEN 遺伝子

< 診断のカテゴリー >

Definite:

個々の診断の判定

下記基準の内いずれか一つを満たす場合に行われる:

1. 粘膜皮膚病変のみで、以下のうちどれかを認める場合
 - (a) 顔面に6つ以上の丘疹を認め、その内の3つ以上が外毛根鞘腫
 - (b) 顔面皮膚丘疹と口腔粘膜乳頭腫症
 - (c) 口腔粘膜乳頭腫症と四肢末端角化症
 - (d) 6カ所以上の掌蹠角化症

2. 大基準を2つ見だし、そのうち1つが巨頭症かLDD
3. 大基準を1つ、小基準を3つ満たす
4. 小基準を4つ満たす

Cowden症候群と診断された患者家族の診断判定

1. 特徴的基準を1つ満たす
2. 大基準を1つ、小基準はあってもなくても良い。
3. 小基準を2つ満たす
4. Bannayan-Riley-Ruvalcaba症候群と診断されたの既往がある。

<重症度分類案>

下記の所見を認める者を重症例とする。

- 1) 知的障害(IQ 75以下)を呈するもの
- 2) 重症の喘息(ステロイドを常時使用)を合併するもの
- 3) 泌尿生殖器奇形
- 4) Bannayan-Ruvalcaba-Riley症候群(BRRS)の合併
- 5) 肝硬変を合併するもの
- 6) 癌を合併するもの

腺腫性ポリポージスの診断基準案

「遺伝性大腸癌診療ガイドライン,2012年度版、大腸癌研究会編集」における家族性大腸腺腫症診断基準に合致した者を指定難病の対象とする。

A 臨床的診断

以下の1.または2.に合致する場合は家族性大腸腺腫症と診断する。

4. 大腸にほぼ100個以上の腺腫を有する。家族歴の有無は問わない。
5. 腺腫の数は100個に達しないが家族性大腸腺腫症の家族歴を有する(大腸外随伴病変は補助診断として参考になる)。

B 遺伝子診断

APC 遺伝子の生殖細胞系列変異を有する場合には家族性大腸腺腫症と診断する。

C 鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

若年性ポリポージス、Cowden病、結節性硬化症、炎症性ポリポージス、serrated polyposis、Crohnite-Carcinoid 症候群

< 診断のカテゴリー >

Definite:

[1]Aの項目のいずれかを満たすか、またはBの項目を満たし、Cの鑑別すべき疾患を除外したもの

< 重症度分類案 >

大腸ポリポージス、十二指腸ポリポージス、腹腔内デスマイドは下記の重症度分類を用いる。

1) 大腸ポリポージス

密生型と非密生型に分類する。

2) 十二指腸ポリポージス

重症度分類(Spiegelman分類)を用いる。

状 態	得 点		
	1	2	3
ポリープ数	1-4	5-20	20
ポリープの大きさ(mm)	1-4	5-10	10
異型度	軽度	中等度	高度
組織構造	管状	管状-絨毛状	絨毛状

病期 Stage	合計得点	サーベイランス方法
0	0	4年毎の内視鏡検査
I	1-4	2-3年毎の内視鏡検査
II	5-6	1-3年毎の内視鏡検査
III	7-8	6-12ヵ月毎の内視鏡検査
IV	9-12	<ul style="list-style-type: none"> ・6-12ヵ月毎の内視鏡検査(専門家によるサーベイランスが望ましい) ・外科的評価 ・手術
V	十二指腸癌	手術

Gar dner 症候群の診断基準案

大腸に通常 100個以上の腺腫を認め、骨腫、歯象異常(過剰歯、埋没歯など)や皮下の軟部腫瘍(類皮嚢胞、脂肪腫など)、デスモイド腫瘍のいずれかを認める場合には臨床的に診断可能で、この場合遺伝学的診断は必要としない。大腸腺腫が 100個に満たない場合には、常染色体優性遺伝に矛盾しない家族歴が補助診断として有用である。大腸腺腫数が 100個に満たない場合には、APC の生殖細胞系列変異が同定されれば遺伝学的に診断できる。

(1)診断法

1) デスモイド腫瘍以外の診断方法

骨腫(頭蓋骨に好発)、歯牙異常は単純レントゲン写真で診断可能である。また、皮下の類皮嚢胞や繊維腫は各々触診や CT など臨床的に診断可能であるが、最終的には摘出して病理組織学的に確認する。筋原性腫瘍、神経原性腫瘍、Gastrointestinal stroma tumor (GIST)等との鑑別には、免疫染色を行い、 α -catenin(核染色)陽性、 β -SMA 陰性、S-100陰性、CD34 陰性、C-KIT 陰性等の所見が得られればデスモイド腫瘍と診断可能である。

2)デスモイド腫瘍の診断方法

触診および画像診断で診断する。一般的に生検の必要はなく、臨床的に診断する。触診では境界不明瞭で硬く、可動性に乏しい腹壁(生検できる部位ですので、生検することを推奨しています - 軟部腫瘍診療ガイドラインにて -)(デスモイド以外の軟部腫瘍発生の可能性があり、アプローチしやすい部位は生検したほうがよいと考えます)あるいは腹腔内腫瘍として触知する。特に大腸ポリポシスに対する大腸切除後 2~3 年以内に発生しやすいので、この期間は 6 カ月毎に触診、1 年毎に CT あるいは MRI 検査を行う必要がある。

[CT]CT は腫瘍の大きさ、局在、個数などの存在診断や進展程度や治療効果の判定に有用である。造影 CT では均一あるいは不均一な造影効果を有する腫瘍として描出される。腹壁デスモイド腫瘍の場合には境界明瞭なことが多いが、後腹膜あるいは腸間膜に存在する場合には明らかな境界を指摘できない場合も多い。同一患者でも、大きさ、発育速度、発生部位により、異なる造影効果を示すことがある。明らかな腫瘍を形成する前は、腸間膜の索状変化(mesenteric stranding)や腸間膜の浸潤性病変として描出される(Brooks AP. Clin Radiol 1994 ; 49:601-607, Middleton SB, Dis Colon Rectum 2003 ;46: 481-485)。しばしば周囲臓器、特に小腸への浸潤が見られる。Alginら CT enterography が腸間膜デスモイド腫瘍の局在や周囲臓器(特に腸管)への浸潤の判定に有用と報告している(Algin O. Iran J Radiol 2012 ;9: 32-36)。

[MRI]T1 強調画像では筋肉組織と比較して低信号ないし等信号を呈することが多い(Aziz L. AJR Am J Radiol 2005 ;184: 1128-35)。T2 強調画像では線維芽細胞密度と線維組織のバランスにより、低信号から高信号と種々の所見を呈しうる。一般的に線維組織が豊富な領域は、筋肉と同等あるいは低い信号で、一般的な悪性腫瘍より低信号を呈する。T2 強調画像での高信号は腫瘍の cellularity を反映し、増大速度の指標となる(Healy JC. AJR Am J Radiol 1997 ;159: 465-472)。

デスモイド腫瘍の診断能に関し、CT と MRI ではほとんど差がない(Sirha A. Br J Radiol 2012 ;85: e254-e261)。また、18F-FDG-PET の診断的意義についても検討されているが、結論は得られていない(Basu S. Br J Radiol 2007 ;80:750-756, Bhadrari S. Dis Colon Rectum 2012 ;55: 1032-1037)。

< デスマイド腫瘍の重症度分類案 >

Gar dner 症候群におけるデスマイド腫瘍の重症度分類

腹腔外と腹腔内を同じ重症度にするのはむずかしいと考えます。

たとえば身体障害者認定をする場合の(内臓機能障害)と(肢体不自由)を同時に重症度分類に入れるのと同じです

下記の Grade 3A, 3B よりも重篤と思われる腹腔外デスマイドが数多くあります。

たとえば下肢発生で切断を余儀なくされた症例、上肢発生で前腕 - 手の機能が著しく障害されている症例、腋窩のデスマイドで肩の挙上が全くできない症例、頸部のデスマイドで腕神経叢麻痺となっている症例、下肢発生で膝が屈曲拘縮して車椅子あるいは両松葉杖歩行の症例などです。

Grade 1 腹腔外のみ発生, 最大径 < 10 cm, 単発.

Grade 2 腹腔外のみ発生, 最大径 \geq 10 cm, 個数は問わない.

Grade 3A 後腹膜および,あるいは腸間膜に発生, 最大径 < 10cm, 個数は問わない, 腸管閉塞, 水腎症いずれの所見もなし.

Grade 3B (1) 後腹膜および,あるいは腸間膜に発生. 最大径 \geq 10cm, 個数は問わない, 腸管閉塞, 水腎症, 血管閉塞いずれの所見もなし. (2) 後腹膜および,あるいは腸間膜に発生, 最大径, 個数は問わない, 腸管閉塞症状(不完全), 水腎症, いずれかを満たす.

Grade 3C 後腹膜および,あるいは腸間膜に発生, 最大径, 個数は問わない. 腹腔内全体を占拠しない. 腸管の完全閉塞を認める.

Grade 4 (1) 瘻孔形成(腸管-デスマイド, デスマイド-皮膚, 等)やこれらに伴う広範な膿瘍形成,あるいは腹壁し開.
(2) 腹腔内全体を占拠する.

腹腔外と腹腔内のデスマイド腫瘍を合併している場合, 腹腔内デスマイド腫瘍の重症度で評価する.

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

発表者氏名	論文タイトル名	発表雑誌	巻号	ページ	出版年
石田秀行, 岩間毅夫, 富田尚裕, 小泉浩一, 古川洋一, 田中屋宏爾, 上野秀樹, 渡邊聡明, 杉原健一	最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング(シリーズ1) 最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング】遺伝性腫瘍研究・診療各論 大腸癌研究会における家族性大腸がんへの取り組み	遺伝子医学MOOK 別冊最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング		214-217	2016
田中屋宏爾, 石田秀行, 江口英孝, 尾形 毅, 山崎理恵, 竹内仁司	【最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング(シリーズ1) 最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング】遺伝性腫瘍研究・診療各論 Peutz-Jeghers 症候群、若年性ポリポシス症候群	遺伝子医学MOOK 別冊最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング		86-92	2016
岩間毅夫, 石田秀行	【最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング(シリーズ1) 最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング】(第1章) 遺伝性腫瘍の概念と分類(解説/特集)	遺伝子医学MOOK 別冊最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング		20-23	2016

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishikawa H, Mutoh M, Iwama T, Suzuki S, Abe T, Takeuchi Y, Nakamura T, Ezoe Y, Fujii G, Wakabayashi K, Nakajima T, Sakai T.	Endoscopic management of familial adenomatous polyposis in patients refusing colectomy.	Endoscopy	48 (1)	51-55	2016
Hamada K, Takeuchi Y, Ishikawa H, Tonai Y, Matsuura N, Ezoe Y, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H.	Feasibility of Cold Snare Polypectomy for Multiple Duodenal Adenomas	Digestive Diseases and Sciences	61(9)	2755 - 2759	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	in Patients with Familial Adenomatous Polyposis: A Pilot Study.				
石川秀樹	家族性大腸腺腫症—最新の治療を中心に	INTESTINE	20 (3)	243-249	2016
石川秀樹	家族性大腸腺腫症における大腸癌の予防	日本消化器病学会雑誌	113 (7)	1191-1195	2016
Uchino S, Ishikawa H, Miyauchi A, Hirokawa M, Noguchi S, Ushiyama M, Yoshida T, Michikura M, Sugano K, Sakai T.	Age- and Gender-Specific Risk of Thyroid Cancer in Patients with Familial Adenomatous Polyposis	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism	101(12)	4611-4617	2016
Watanabe Y, Ishida H, Baba H, Iwama T, Kudo A, Tanabe M, Ishikawa H	Pancreas-sparing total duodenectomy for Spigelman stage IV duodenal polyposis associated with familial adenomatous polyposis: experience of 10 cases at a single institution.	Familial Cancer	16	91-98	2017
中島健、石川秀樹、齋藤豊	腺腫性ポリポージス—遺伝性大腸癌診断ガイドラインの解説と実臨床での対応—	日本消化器病学会雑誌	114 (3)	413-421	2017
Kohda M, Kumamoto K, Eguchi H, Hirata T, Tada Y, Tanakaya K, Akagi K, Takenoshita S, Iwama T, Ishida H, Okazaki Y.	Rapid detection of germline mutations for hereditary gastrointestinal polyposis/cancers using HaloPlex target enrichment and high-throughput sequencing technologies.	Fam Cancer	15 (4)	553-562	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
坂本博次、宮田康史、 山本博徳	【十二指腸腫瘍をど うする】全身性疾患 に伴う十二指腸腫瘍 (消化管ポリポーシ ス、von Recklingha usen病、ZEなど)	消化器内視鏡	27	1184- 1186	2016
Ishida H, Tajima Y, Gonda T, Kumamoto K, Ishibashi K, Iwama T.	Update on our investigation of malignant tumors associated with Peutz-Jeghers syndrome in Japan.	Surg Today	46(11)	1231- 1242	2016
Kumamoto K, Ishida H, Suzuki O, Tajima Y, Chika N, Kuwabara K, Ishibashi K, Saito K, Nagata K, Eguchi H, Tamaru J, Iwama T.	Lower prevalence of Lynch syndrome in colorectal cancer patients in a Japanese hospital-based population.	Surg Today	46(6)	713-720	2016
Suzuki O, Eguchi H, Chika N, Sakimoto T, Ishibashi K, Kumamoto K, Tamaru JI, Tachikawa T, Akagi K, Arai T, Okazaki Y, Ishida H.	Prevalence and Clinicopathologic /molecular characteristics of mismatch repair-deficient colo rectal cancer in the under-50-year-old Japanese population.	Surg Today	2017.Mar 3	Epub ah ead of p rint	2017

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Chika N, Eguchi H, Kumamoto K, Suzuki O, Ishibashi K, Tachikawa T, Akagi K, Tamaru JI, Okazaki Y, Ishida H.	Prevalence of Lynch syndrome and Lynch-like syndrome among patients with colorectal cancer in a Japanese hospital-based population.	Jpn J Clin Oncol	47 (2)	191	2017
Watanabe T, Muro K, Ajioka Y, Hashiguchi Y, Ito Y, Saito Y, Hamaguchi T, Ishida H, Ishiguro M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Kawano H, Kinugasa Y, Kokudo N, Murofushi K, Nakajima T, Oka S, Sakai Y, Tsuji A, Uehara K, Ueno H, Yamazaki K, Yoshida M, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Itabashi M, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Shimada Y, Takahashi K, Tanaka S, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yamaguchi N, Tanaka T, Kotake K, Sugihara K; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.	Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2016 for the treatment of colorectal cancer.	Int J Clin Oncol	2017 Mar 27	Epub ahead of print	2017
Yamadera M, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Ishida H, Sugihara K.	Current status of prophylactic surgical treatment for familial adenomatous polyposis in Japan.	Surg Today	47(6)	690-696	2017
Inoue Y, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Yamaguchi T, Konishi T, Tomita N, Matsubara N, Ishida F, Hinoi T, Kanemitsu Y, Watanabe T, Sugihara K.	Therapeutic approaches for patients with coexisting familial adenomatous polyposis and colorectal cancer.	Jpn J Clin Oncol	46(9)	819-824	2016
Saito Y, Hinoi T, Ueno H, Kobayashi H,	Risk Factors for the Development of	Ann Surg Oncol	23(4)	559-565	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Kotake K, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Ohdan H, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H.	Desmoid Tumor After Colectomy in Patients with Familial Adenomatous Polyposis: Multicenter Retrospective Cohort Study in Japan.				
Konishi T, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K	Feasibility of laparoscopic total proctocolectomy with ileal pouch-anal anastomosis and total colectomy with ileorectal anastomosis for familial adenomatous polyposis: results of a nationwide multicenter study.	Int J Clin Oncol	21(5)	953-961	2016
Tanakaya K, Yamaguchi T, Ishikawa H, Hinoi T, Furukawa Y, Hirata K, Saida Y, Shimokawa M, Arai M, Matsubara N, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Ishioka C, Yoshida T, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K; for HNPCC Registry and Genetic Testing Project of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.	Causes of Cancer Death Among First-Degree Relatives in Japanese Families with Lynch Syndrome.	Anticancer Res	36(4)	1985-1989	2016
Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Kanemitsu Y, Inoue Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Ozawa H, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Akagi Y, Yatsuoka T, Kumamoto K, Kurachi K, Tanakaya K, Yoshimatsu K, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H.	Prevalence of laparoscopic surgical treatment and its clinical outcomes in patients with familial adenomatous polyposis in Japan.	Int J Clin Oncol	21(4)	713-722	2016
Yamaguchi T, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H,	Upper gastrointestinal	Jpn J Clin Oncol	46(4)	310-315	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K.	tumours in Japanese familial adenomatous polyposis patients.				
Inoue Y, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Yamaguchi T, Konishi T, Tomita N, Matsubara N, Ishida F, Hinoi T, Kanemitsu Y, Watanabe T, Sugihara K.	The treatment of desmoid tumors associated with familial adenomatous polyposis: the results of a Japanese multicenter observational study.	Surg Today.	doi: 10.1007/s00595-017-1500-3.		2017
Kobayashi H, Ishida H, Ueno H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K.	Association between the age and the development of colorectal cancer in patients with familial adenomatous polyposis: a multi-institutional study.	Surg Today	47(4)	470-475	2017
Kobayashi H, Ishida H, Ueno H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K.	Childbirth after surgery for familial adenomatous polyposis in Japan.	Surg Today	47(2)	233-237	2017
石田秀行, 岩間毅夫	【大腸癌 update-基礎と臨床の研究動向-】大腸癌の疫学動向 遺伝性大腸癌の疫学	日本臨床	74(11)	1790-1795	2016
田中屋宏爾, 古川洋一, 吉田輝彦, 山口達郎, 松原長秀, 平田敬治, 斉田芳久, 新井正美, 石川秀樹, 石岡千加史, 田村和朗, 菅野康吉, 富田尚裕, 石田 秀行, 渡邊聡明, 杉原健一	【わが国の家族性腫瘍の診療:未来への提言】 リンチ症候群に関する大腸癌研究会の活動と展望	家族性腫瘍	16(1)	19-22	2016
上野秀樹, 石田秀行, 小林宏寿, 山口達郎, 小西 毅, 石田文生, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 渡邊聡明, 杉原健一	わが国の家族性腫瘍の診療:未来への提言】 大腸癌研究会における家族性大腸腺腫症(FAP)の診療指針確立への取り組み	家族性腫瘍	16(1)	14-18	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
石田秀行	【遺伝性腫瘍-実地臨床での対応を目指して】家族性大腸腺腫症	日本医師会雑誌	145(4)	715-719	2016
小倉俊郎, 近 範泰, 傍島 潤, 石畝 亨, 福地 稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行	【消化管ポリポシス-診断と治療の進歩】消化管ポリポシスに対する外科治療	Intestine	20(3)	313-319	2016
石橋敬一郎, 近 範泰, 鈴木興秀, 伊藤哲哉, 天野邦彦, 隈元謙介, 福地 稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行	Stage IV 大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白欠失症例の特徴と Oxaliplatin-Base 療法の治療成績	癌と化学療法	43(12)	1711-1714	2016
崎元雄彦, 近 範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 立川哲彦, 赤木 究, 江口英孝, 岡崎康司, 石田秀行	MSI-H 大腸癌における BRAF V600E 変異の検索 免疫染色と遺伝学的検査の比較	癌と化学療法	43(12)	1693-1695	2016
近 範泰, 福地 稔, 鈴木興秀, 伊藤徹哉, 山本 梓, 石畝 亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田 秀行	高齢者胃癌におけるミスマッチ修復蛋白発現欠失の頻度と特徴	癌と化学療法	43(10)	1298-1300	2016
伊藤徹哉, 近 範泰, 山本 梓, 小倉俊郎, 天野邦彦, 石畝 亨, 福地 稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 岡崎康司, 持木彫人, 石田 秀行	腸管との交通が疑われたデスモイド腫瘍に対して非観血的治療が奏効した家族性大腸腺腫症の1例	癌と化学療法	43(12)	2316-2319	2016
小倉俊郎, 石畝 亨, 牟田 優, 福地 稔, 長井智則, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田 秀行	悪性腫瘍が多発した Peutz-Jeghers 症候群の一家系	癌と化学療法	43(12)	2133-2135	2016
山本 梓, 鈴木興秀, 近 範泰, 伊藤徹哉, 田島雄介, 隈元謙介, 江口英孝, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岡崎康司, 石田 秀行	MLH1 遺伝子異常を原因とし大腸癌と子宮内膜癌を合併した若年者リンチ症候群の1例	癌と化学療法	43(12)	1818-1820	2016
Ninomiya Y, Oka S, Tanaka S, Hirano D, Sumimoto K, Tamaru Y, Asayama N, Shigita K, Nishiyama S, Hayashi N, Chayama K	Clinical impact of dual red imaging in colorectal endoscopic submucosal dissection: a pilot study.	Therap Adv Gastroenterol	9 (5)	679-683	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Watanabe T, Ajioka Y, Mitsuyama K, Watanabe K, Hanai H, Nakase H, Kunisaki R, Matsuda K, Iwakiri R, Hida N, Tanaka S, Takeuchi Y, Ohtsuka K, Murakami K, Kobayashi K, Iwao Y, Nagahori M, Iizuka B, Hata K, Igarashi M, Hirata I, Kudo SE, Matsumoto T, Ueno F, Watanabe G, Ikegami M, Ito Y, Oba K, Inoue E, Tomotsugu N, Takebayashi T, Sugihara K, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T	Comparison of targeted vs random biopsies for surveillance of ulcerative colitis-associated colorectal cancer.	Gastroenterology	151(6)	1122-1130	2016
Kominami Y, Yoshida S, Tanaka S, Sanomura Y, Hirakawa T, Raytchev B, Tamaki T, Koide T, Kaneda K, Chayama K	Computer-aided diagnosis of colorectal polyp histology by using a real-time image recognition system and narrow-band imaging magnifying colonoscopy.	Gastrointest Endosc	83(3)	643-649	2016
Sanomura M, Tanaka S, Sasaki Y, Fukunishi S, Higuchi K.	Endoscopic diagnosis of the invasion depth of T1 colorectal carcinoma for endoscopic resection by using narrow-band imaging magnification as total excisional biopsy.	Digestion	94(2)	106-113	2016
Tamaru Y, Oka S, Tanaka S, Hiraga Y, Kunihiro M, Nagata S, Furudo A, Ninomiya Y, Asayama N, Shigita K, Nishiyama S, Hayashi N, Chayama K.	Endoscopic submucosal dissection for anorectal tumor with hemorrhoids close to the dentate line: a multicenter study of Hiroshima GI Endoscopy Study Group.	Surg Endosc	30(10)	4425-4431	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Miguchi M, Hinoi T, Shimomura M, Adachi T, Saito Y, Niitsu H, Kochi M, Sada H, Sotomaru Y, Ikenoue T, Shigeyasu K, Tanakaya K, Kitadai Y, Sentani K, Oue N, Yasui W, Ohdan H.	Gasdermin C is upregulated by inactivation of transforming growth factor β receptor Type II in the presence of mutated apc, promoting colorectal cancer proliferation.	PLoS One	11	11	2016
Peter Elmer, Michael Hafner, Tamaki T, Tanaka S, Rene Thaler, Andreas Uhl, Yoshida S.	Impact of lossy image compression on CAD support systems for colonoscopy.	Computer-Assisted and Robotic Endoscopy		1-11	2016
Niitsu H, Hinoi T, Kawaguchi Y, Sentani K, Yuge R, Kitadai Y, Sotomaru Y, Adachi T, Saito Y, Miguchi M, Kochi M, Sada H, Shimomura M, Oue N, Yasui W, Ohdan H.	KRAS mutation leads to decreased expression of regulator of calcineurin 2, resulting in tumor proliferation in colorectal cancer.	Oncogenesis	5	8	2016
Asayama N, Oka S, Tanaka S, Ninomiya Y, Tamaru Y, Shigita K, Hayashi N, Egi H, Hinoi T, Ohdan H, Arihiro K, Chayama K.	Long-term outcomes after treatment for T1 colorectal carcinomas.	Int J Colorectal Dis	31(3)	571-578	2016
Kawaguchi Y, Hinoi T, Saito Y, Adachi T, Miguchi M, Niitsu H, Sasada T, Shimomura M, Egi H, Oka S, Tanaka S, Chayama K, Sentani K, Oue N, Yasui W, Ohdan H.	Mouse model of proximal colon-specific tumorigenesis driven by microsatellite instability-induced Cre-mediated inactivation of Apc and activation of Kras.	J Gastroenterol	51(5)	447-457	2016
Takigawa H, Kitadai Y, Shinagawa K, Yuge R, Higashi Y, Tanaka S, Yasui W, Chayama K.	Multikinase inhibitor regorafenib inhibits the growth and metastasis of colon cancer with abundant stroma.	Cancer Sci	107(5)	601-608	2016
Sano Y, Tanaka S, Kudo S, Saito S, Matsuda T, Wada Y, Fujii T, Ikematsu H, Uraoka T, Kobayashi N, Nakamura H, Hotta K, Horimatsu T,	Narrow-band imaging (NBI) magnifying endoscopic classification of colorectal tumors proposed by the	Dig Endosc	28(5)	526-533	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sakamoto N, Fu KI, Tsuruta O, Kawano H, Kashida H, Takeuchi Y, Machida H, Kusaka T, Yoshida N, Hirata I, Terai T, Yamano H, Kaneko K, Nakajima T, Sakamoto T, Yamaguchi Y, Tamai N, Nakano N, Hayashi N, Oka S, Iwatate M, Ishikawa H, Murakami Y, Yoshida S, Saito Y.	Japan NBI Expert Team.				
Asayama N, Oka S, Tanaka S, Hirano D, Sumimoto K, Ninomiya Y, Tamaru Y, Shigita K, Hayashi N, Shimamoto F, Arihiro K, Chayama K.	Pedunculated-type T1 colorectal carcinoma with lung carcinoma metastasis at the deepest invasive portion.	Clin J Gastroenterol	9(4)	208-214	2016
Hayashi R, Tsuchiya K, Fukushima K, Horita N, Hibiya S, Kitagaki K, Negi M, Itoh E, Akashi T, Eishi Y, Okada E, Araki A, Ohtsuka K, Fukuda S, Ohno H, Okamoto R, Nakamura T, Tanaka S, Chayama K, Watanabe M.	Reduced human α -defensin 6 in noninflamed jejunal tissue of patients with crohn's disease.	Inflamm Bowel Dis	22(5),	1119-1128	2016
Asayama N, Oka S, Tanaka S, Chayama K.	Area of Submucosal Invasion and Width of Invasion Predict Lymph Node Metastasis in pT1 Colorectal Cancers.	Dis Colon Rectum	59(2)	e19-e20	2016
Asayama N, Oka S, Tanaka S, Nagata S, Furudoi A, Kuwai T, Onogawa S, Tamura T, Kanao H, Hiraga Y, Okanobu H, Kuwabara T, Kunihiro M, Mukai S, Goto E, Shimamoto F, Chayama K.	Long-term outcomes after treatment for pedunculated-type T1 colorectal carcinoma: a multicenter retrospective cohort study.	J Gastroenterol	51	702-710	2016
Shigita K, Oka S, Tanaka S, Sumimoto K, Hirano D, Tamaru Y, Ninomiya Y, Asayama N, Hayashi N, Nagata S, Arihiro K, Chayama K.	Clinical significance and validity of the subclassification for colorectal laterally spreading tumor granular type.	J Gastroenterol Hepatol	31	973-979	2016
Wimmer G, Tamaki T, Tischendorf JJ,	Directional wavelet based features for	Med Image Anal	31	16-36	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Häfner M, Yoshida S, Tanaka S, Uhl A.	colonic polyp classification.				
Asayama N, Oka S, Tanaka S, Sumimoto K, Hirano D, Tamaru Y, Ninomiya Y, Shigita K, Hayashi N, Nishiyama S, Chayama K.	Clinical usefulness of a single-use splinting tube for poor endoscope operability in deep colonic endoscopic submucosal dissection.	Endosc Int Open	4	E614-7	2016
Sagami S, Ueno Y, Tanaka S, Fujita A, Hayashi R, Oka S, Hyogo H, Chayama K.	The significance of non-alcoholic fatty liver disease in Crohn's disease: A retrospective cohort study.	Hepatol Res		Oct 13. doi: 10.1111/h epr.1282 8	2016
Nishiyama S, Oka S, Tanaka S, Sagami S, Hayashi R, Ueno Y,	Clinical usefulness of narrow band imaging magnifying colonoscopy for assessing ulcerative colitis-associated cancer/dysplasia.	Endosc Int Open	4(11)	E1183-E 1187	2016
Otani I, Oka S, Tanaka S.	Mesalazine-induced enteritis causing refractory diarrhea.	Dig Endosc	29(1)	128-129	2016
Igawa A, Oka S, Tanaka S, Otani I, Kunihara S, Chayama K.	Evaluation for the clinical efficacy of colon capsule endoscopy in the detection of laterally spreading tumors.	Digestion	95(1)	43-48	2017
Sumimoto K, Tanaka S, Shigita K, Hirano D, Tamaru Y, Ninomiya Y, Asayama N, Hayashi N, Oka S, Arihiro K, Yoshihara M, Chayama K.	Clinical impact and characteristics of the narrow-band imaging magnifying endoscopic classification of colorectal tumors proposed by the Japan NBI Expert Team.	Gastrointest Endosc.	85(4)	816-821	2017
Okamoto K, Muguruma N, Takayama T, et al.	Efficacy of hybrid endoscopic submucosal dissection (ESD) as a rescue treatment in difficult colorectal ESD cases.	Digestive Endoscopy	29 Suppl 2	45-52	2017
Miyamoto Y, Muguruma N, Takayama T, et al.	Protein-losing enteropathy in a	Clinical Journal of	9(3)	134-139	2016

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	patient with familial adenomatous polyposis and advanced colon cancer.	Gastroenterology			
Muguruma N, Tanaka K, Teramae S, Takayama T.	Colon capsule endoscopy: toward the future.	Clinical Journal of Gastroenterology	10(1)	1-6	2017
Teramae S, Okamoto K, Takayama T, et al.	Duodenal cancer in a young patient with Peuts-Jeghers syndrome harboring an entire deletion of the STK11 gene.	Clinical Journal of Gastroenterology	10(3)	232-239	2017
Okamoto K, Kitamura S, Takayama T, et al.	Clinicopathological characteristics of serrated polyps as precursors to colorectal cancer: Current status and management.	J Gastroenterol Hepatol.	32(2)	358-367	2017
高山哲治, 宮本弘志, 六車直樹.	大腸癌の予防	日本消化器病学会雑誌	113(7)	1168-75	2016
坂本博次, 矢野智則, 砂田圭二郎	過誤腫性ポリポース	日本消化器病学会雑誌	114(3)	422-30	2017
坂本博次, 矢野智則	【消化管ポリポース-診断と治療の進歩】小腸の消化管ポリポースにおける内視鏡的治療.	Intestine	20(3)	307-312	2016
武田 祐子	【遺伝性腫瘍-実地臨床での対応を目指して】遺伝カウンセリングの実際	日本医師会雑誌	145(4)	732	2016
村上 好恵, 武田 祐子, 他2名	遺伝性腫瘍の医療において看護師が担う役割	がん看護	21(1)	76-79	2016
Yamaguchi T, Furukawa Y, Nakamura Y, Matsubara N, Ishikawa H, Arai M, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Iahioka C, Yoshida T, Moriyama Y, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K.	Comparison of clinical features between suspected familial colorectal cancer type X and Lynch syndrome in Japanese patients with colorectal cancer: a cross-sectional study conducted by the Japanese Society for cancer of the colon and rectum.	Jpn J Clin Oncol	45 (2)	153-159	2015
Kumamoto K,	Germline and som	Oncol Lett	10 (4)	2239-	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishida H, Ohsawa T, Ishibashi K, Ushiyama M, Yoshida T, Iwama T.	atic mutations of the APC gene in papillary thyroid carcinoma associated with familial adenomatous polyposis: Analysis of 3 cases and review of the literature.			2243	
松澤岳晃, 石田秀行, 近範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 岩間毅夫	家族性大腸がんの頻度・診断と治療	腫瘍内科	16 (3)	225-230	2015
石田秀行, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫	大腸外病変に対する対応 - 胃・十二指腸病変とデスモイド腫瘍	日本大腸肛門病学会雑誌	68 (10)	908-920	2015
石田秀行, 岩間毅夫	遺伝性大腸癌: 家族性大腸腺腫症, MUTYH 関連ポリポーシス, リンチ症候群	日本臨牀	73 増刊号 4	59-64	2015
石田秀行, 岩間毅夫, 富田尚裕, 小泉浩一, 赤木究, 石黒めぐみ, 渡邊聡明, 杉原健一	遺伝性大腸癌の診療とガイドライン	日本臨牀	73 増刊号 6	547-551	2015
小林宏寿, 岩間毅夫, 石田秀行	Familial adenomatous polyposis (家族性大腸腺腫症)	日本臨牀	73 巻 増刊号 6	94-98	2015
田島雄介, 石田秀行	家族性大腸腺腫症 (FAP)	臨床画像	31 増刊号 10	105-108	2015
松澤岳晃, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 石畝亨, 傍島潤, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行	遠隔転移を伴う大腸癌を合併した家族性大腸腺腫症の治療経験	家族性腫瘍	15 (2)	27-30	2015
鈴木興秀, 近範泰, 福地稔, 隈元謙介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 持木彫人, 赤木究, 石田秀行	MSI-H と MSH2/MSH6 蛋白発現の欠失を認めた横行結腸癌を合併した家族性大腸腺腫症の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	2208-2210	2015
田島雄介, 幡野哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 近範泰, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 持木彫人, 山口研成, 赤木究, 岩間毅夫, 石田秀行	Stapled Ileal-Pouch Anal Anastomosis 後の残存直腸に繰返し発生した粘膜内癌に対し全周性の粘膜切除を施行した家族性大腸腺腫症の 1	癌と化学療法	42 (12)	2199-2201	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	例				
近範泰, 隈元謙介, 鈴木興秀, 山本梓, 田島雄介, 渡辺雄一郎, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 江口英孝, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行	回腸人工肛門周囲に 発生した FAP 合併デ スモイド腫瘍の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	1947- 1949	2015
田島雄介, 隈元謙介, 山本梓, 近範泰, 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 赤木究, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 合併した異時性多発 甲状腺乳頭癌の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	1833- 1835	2015
渡辺雄一郎, 馬場裕之, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 併存した十二指腸神 経内分泌腫瘍の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	1764- 1766	2015
渡辺雄一郎, 馬場裕之, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋 一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行	小切開下に腓温存全 十二指腸切除術を施 行した FAP の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	1761- 1763	2015
石橋敬一郎, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 馬場裕之, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行	家族性大腸腺腫症に 発生した子宮内膜 癌、卵巣癌、十二指 腸癌の 1 例	癌と化学療法	42 (12)	1715- 1717	2015
Häfner M, Tanaka S, et al.	Local fractal dimen sion based approac hes for colonic poly p classification.	Med Image Anal	26 (1)	92-107	2015
Kominami Y, Tanaka S, et al.	Evaluation of dual- wavelength excitati on autofluorescence imaging of colorec tal tumours with a high-sensitivity C MOS imager: a cro ss-sectional study.	BMC Gastro enterol	15 (110)	On line 1-6	2015
Tamaru Y, Tanaka S, et al.	Early squamous ce ll carcinoma of the anal canal resecte d by endoscopic su bmucosal dissectio n.	Case Rep Ga stroenterol	30 (9)	120-125	2015
Saito Y, Tanaka S, et al.	Evaluation of the c linical efficacy of c olon capsule endos copy in the detecti on of lesions of the colon: prospective,	Gastrointest Endosc	82 (5)	861-869	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	multicenter, open study.				
Watanabe T, Tanaka S, et al.	Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2014 for treatment of colorectal cancer.	Int J Clin Oncol	20 (2)	207-239	2015
Horimatsu T, Tanaka S, et al.	Next-generation narrow band imaging system for colonic polyp detection: a prospective multicenter randomized trial.	Int J Colorectal Dis.	30 (7)	947-954	2015
Urabe Y, Tanaka S, et al.	Impact of revisions of the JSCCR guidelines on the treatment of T1 colorectal carcinomas in Japan.	Z Gastroenterol	53 (4)	291-301	2015
Tanaka S, Kashida H, et al.	(JGES Guidelines) Colorectal endoscopic submucosal dissection/endoscopic mucosal resection guidelines.	Dig Endosc	27 (4)	417-434	2015
Tanaka S, Saitoh Y, et al.	Evidence-based clinical practice guidelines for management of colorectal polyps.	J Gastroenterol	50 (3)	252-260	2015
Asayama N, Tanaka S, et al.	Endoscopic submucosal dissection as total excisional biopsy for clinical T1 colorectal carcinoma.	Digestion	91 (1)	64-69	2015
Tanaka S, Asayama N, et al.	Towards safer and appropriate application of endoscopic submucosal dissection for T1 colorectal carcinoma as total excisional biopsy: Future perspective.	Dig Endosc	27 (2)	216-222	2015
Yuge R, Tanaka S, et al.	mTOR and PDGF Pathway Blockade Inhibits Liver Metastasis of Colorectal Cancer by Modul	Am J Pathol	185 (2)	399-408	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	ating the Tumor Microenvironment.				
Uraoka T, Tanaka S, et al.	Feasibility of a novel colonoscope with extra-wide angle of view: a clinical study.	Endoscopy	47 (5)	444-448	2015
Wada Y, Tanaka S, et al.	Predictive factors for complications in endoscopic resection of large colorectal lesions: a multicenter prospective study.	Surg Endosc	29 (5)	1216-1222	2015
Yamamoto H, Tanaka S, et al.	Double-balloon enteroscopy is safe and effective for the diagnosis and treatment of small-bowel disorders: A prospective multicenter study performed by expert and non-expert endoscopists in Japan.	Dig Endosc	27 (3)	331-337	2015
Muguruma N, Takayama T.	Narrow Band Imaging as an Efficient and Economical Tool in Diagnosing Colorectal Polyps	Clinical Endoscopy	48 (6)	461-463	2015

平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

家族性大腸ポリポース患者会

ハーモニー・ライフ, ハーモニー・ライン, ノール・アルモニー共催
日本家族性腫瘍学会後援

無 料

消化管良性多発腫瘍好発疾患の
医療水準向上に向けて
大腸ポリポースの指定難病認定を目指す

日時

2016年

1月31日(日) 13:00-16:00

会場

慶應義塾大学病院2号館11階大会議室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 <http://www.hosp.keio.ac.jp/kotsu/>
JR 中央・総武線「信濃町」駅下車、徒歩約1分
地下鉄 都営大江戸線「国立競技場」駅下車(A1番出口)、徒歩約5分

家族性大腸ポリポースについての概要

岩間毅夫 埼玉医科大学総合医療センター客員教授

シンポジウム

進行: 石川秀樹 京都府立医科大学特任教授
武田祐子 慶應義塾大学看護医療学部教授

シンポジスト:

家族性大腸ポリポース患者会代表

石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉 東北大学大学院医学系研究科/
医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎 朝日新聞科学医療部記者

* 事前登録は不要です。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ

武田祐子
慶應義塾大学看護医療学部/大学院健康マネジメント研究科
E-mail: takeday@sfc.keio.ac.jp
TEL 03-5363-2064

平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上に向けて
大腸ポリポースの指定難病認定を目指す

【プログラム】

[開会の挨拶]

石川秀樹 京都府立医科大学特任教授

[家族性大腸ポリポースについての概要]

岩間毅夫 埼玉医科大学総合医療センター客員教授

[シンポジウム]

家族性大腸ポリポース患者会

ハーモニー・ライン代表／ハーモニー・ライフ代表

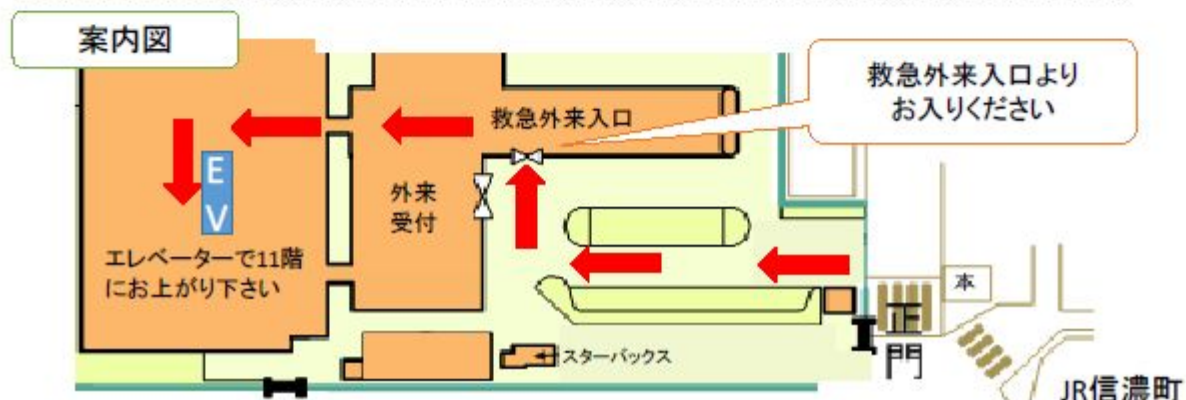
石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉 東北大学大学院医学系研究科／

医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎 朝日新聞科学医療部記者

(全体討議)



平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

家族性大腸ポリポージス患者会

ハーモニー・ライフ、ハーモニー・ライン、ノール・アルモニー共催
日本家族性腫瘍学会後援

無 料

消化管良性多発腫瘍好発疾患の
医療水準向上に向けて
大腸ポリポージスの指定難病認定を目指す

日時

2016年

1月31日(日) 13:00-16:00

会場

慶應義塾大学病院2号館11階大会議室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 <http://www.hosp.keio.ac.jp/kotsu/>
JR 中央・総武線「信濃町」駅下車、徒歩約1分
地下鉄 都営大江戸線「国立競技場」駅下車(A1番出口)、徒歩約5分

家族性大腸ポリポージスについての概要

岩間毅夫 埼玉医科大学総合医療センター客員教授

シンポジウム

進行: 石川秀樹 京都府立医科大学特任教授
武田祐子 慶應義塾大学看護医療学部教授

シンポジスト:

家族性大腸ポリポージス患者会代表

石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉 東北大学大学院医学系研究科/
医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎 朝日新聞科学医療部記者

* 事前登録は不要です。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ

武田祐子
慶應義塾大学看護医療学部/大学院健康マネジメント研究科
E-mail: takeday@sfc.keio.ac.jp
TEL 03-5363-2064

平成27年度 難治性疾患政策研究事業
公開シンポジウム

消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上に向けて
大腸ポリポースの指定難病認定を目指す

【プログラム】

[開会の挨拶]

石川秀樹 京都府立医科大学特任教授

[家族性大腸ポリポースについての概要]

岩間毅夫 埼玉医科大学総合医療センター客員教授

[シンポジウム]

家族性大腸ポリポース患者会

ハーモニー・ライン代表／ハーモニー・ライフ代表

石田秀行 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授

伊藤道哉 東北大学大学院医学系研究科／

医学部公衆衛生学専攻公共健康医学講座講師

鍛冶信太郎 朝日新聞科学医療部記者

(全体討議)

